

事業群評価調書(平成30年度実施)

基本戦略名	2 交流を支える地域を創出する	事業群主管所属	教育庁学芸文化課
施策名	(2) 文化・スポーツによる地域活性化	課(室)長名	草野 悦郎
事業群名	② 伝統文化の継承と文化財の保存・活用	事業群関係課(室)	

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文)						(取組項目)				
郷土の歴史や文化の保存継承活動の活性化を図り、世代間交流を促進することで、豊かで活気ある地域社会の実現を目指します。また、貴重な文化財を大切に守り、次の時代へ確実に引き継いでいくために、その調査や指定を進めるとともに、地域の文化財や歴史に触れる機会の充実に努めます。						i) 次世代へ日本の伝統文化、地域の郷土芸能を継承していく機運を醸成するため、「長崎県の文化財公開月間」等の事業の実施 ii) 文化財の適正な保存管理とその活用の促進				
事業群	指 標		基準年	H28	H29	H30	H31	H32	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)
	国や県の指定等となった文化財の数	目標値①		681件	689件	697件	705件	713件	713件 (H32)	
		実績値②	665件 (H26)	670件	676件				進捗状況	
		②/①		98%	98%				やや遅れ	
国の文化財として重要文化財2件、登録有形文化財1件が新たに指定され、県の文化財として有形文化財1件、無形文化財2件を指定し、計6件の文化財の指定を行った。 ○国指定重要文化財 ・本河内水源地水道施設 二所、一基(長崎市) ・高麗版一切経 附 大般若経(対馬市) ○国登録有形文化財 ・旧長醫家住宅主屋(松浦市) ○県指定有形文化財 ・無原罪の聖母図(聖母マリアの御絵)(長崎市) ○県指定無形文化財 ・三川内焼 染付技術(保持者 中里 勝歳)(佐世保市) ・木原刷毛目(保持者 横石 嘉佑(雅号 宗鷹))(佐世保市)										

2. 29年度取組実績(H30新規・補正は参考記載)

事業 番号	取組 項目	事務事業名 所管課(室)名	事業 期間	事業費（単位:千円）			事 業 概 要		指標(上段:活動指標、下段:成果指標)					29年度事業の成果等	中核 事業	
				H28実績	うち 一般財源	人件費 (参考)	事業対象	29年度事業の実施状況 (30年度新規・補正事業は事業内容)	指標	主な目標	H28目標	H28実績	達成率			
				H29実績							H29目標	H29実績				
				H30計画							H30目標					
1	取組 項目 i	文化財調査管理費	S47-	74,148	70,926	22,518	県民、国民	次世代へ伝統文化、地域芸能を継承していく機運醸成の推進のため、「長崎県の文化財公開月間」を実施するとともに、県内文化財の保存・活用の推進のため、文化財の整備への助成を実施した。	活動 指標	長崎県の文化財公開月間のイベントの開催回数(回)	数値目標なし	28	—	「長崎県の文化財公開月間」の実施により、次世代へ伝統文化、地域芸能を継承していく機運醸成が図られるとともに、県内文化財の整備への助成により、文化財の保存・活用の推進が図られた。	○	
					72,041	70,221				29,807		数値目標なし	23			—
					70,129	68,201				24,788		数値目標なし				
		学芸文化課									数値目標なし	146,320	—			
2	取組 項目 ii	重要遺跡情報保存活用事業費	H14-	20,316	15,989	17,290	県民、国民	国史跡「鷹島海底遺跡」の保存・活用の推進のため、松浦市と連携して海底遺跡の調査を実施するとともに、各種開発行為に伴う埋蔵文化財の予備調査、分布調査を実施した。	活動 指標	鷹島海底遺跡の調査回数(回)	1	1	100%	国史跡「鷹島海底遺跡」の調査により、水中考古学研究の推進に寄与するとともに、開発行為に伴う調査により、埋蔵文化財の適切な保護の推進が図られた。	○	
					19,037	14,649				10,876		1	1			100%
		学芸文化課		17,892	13,992	11,194	成果 指標	鷹島海底遺跡の調査報告書の作成件数(件)	数値目標なし	1	—		1	100%		

3	取組項目 ii	世界遺産保存整備事業	H19-	93,160	93,160	4,021	県民、国民	世界遺産関連の構成資産である文化財の保存・活用の推進のため、文化財の整備への助成を実施した。	活動指標	助成件数(件)	数値目標なし	18	—	世界遺産関連の構成資産である文化財の整備への助成により、文化財の保存・活用の推進が図られた。	
				69,307	69,307	3,625			数値目標なし	15	—				
				97,877	97,877	3,998			成果指標	H28,H29:世界遺産登録推進のための文化財保護制度面からの支援	数値目標なし	—	—		
									H30:事業計画の達成率(%)	100					
4		埋蔵文化財センター管理運営費	H21-	181,796	176,864	35,385	県民、国民	埋蔵文化財の適切な保護の推進のため、県内の埋蔵文化財の発掘・調査研究や、出土品の保存処理・収集保管、埋蔵文化財の普及啓発を実施した。	活動指標	遺物の保存処理点数(点)	230	393	170%	県内の埋蔵文化財の発掘・調査研究や、出土品の保存処理・収集保管、埋蔵文化財の普及啓発の実施より、埋蔵文化財の適切な保護の推進が図られた。	C
				171,574	166,437	40,683			230	291	126%				
				165,450	159,324	35,982			成果指標	遺物の保存処理完了点数(点)	230	393	170%		
									230	291	126%				
5		原の辻遺跡調査研究事業	H10-	12,108	6,168	20,507	県民、国民	国特別史跡「原の辻遺跡」の保存・活用の推進のため、国指定範囲の追加指定及び出土品の国重要文化財指定に向けた調査・研究と普及啓発を実施した。	活動指標	発掘調査面積(㎡)	300	300	100%	国指定範囲の追加指定及び出土品の国重要文化財指定に向けた調査・研究と普及啓発の実施により、国特別史跡「原の辻遺跡」の保存・活用の推進が図られた。	
				10,532	5,487	22,960			300	300	100%				
				17,078	8,717	19,990			成果指標	原の辻遺跡の学術的研究の推進(発掘調査報告書の刊行)(回)	1	1	100%		
									1						
6		宗家文書修復・保存・整理事業費	H2-	24,600	11,081	14,074	県民、国民	国指定重要文化財「対馬宗家関係資料」の保存・活用の推進のため、劣化の著しい資料を優先して修復を実施した。	活動指標	修復した冊数(冊)	7	7	100%	国指定重要文化財「対馬宗家関係資料」の修復の実施により、「対馬宗家関係資料」の保存・活用の推進が図られた。	C
				30,021	11,976	13,292			7	7	100%				
				40,477	15,382	13,593			9						
				成果指標	修復した宗家文書の公開(件)	2			2	100%					
								数値目標なし	—	—					
								数値目標なし							

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i) 次世代へ日本の伝統文化、地域の郷土芸能を継承していく機運を醸成するため、「長崎県の文化財公開月間」等の事業の実施
・文化財公開月間期間中に市町が実施する各種事業等は、「地域の文化財は地域で守る」という文化財の保護意識の醸成及び普及啓発のために有効な施策であり、今後、地域に密着した市町のさらなる取組の推進が重要である。
・県としては、市町が取り組む事業等について、積極的に助言等を行うとともに、ホームページや広報紙等の活用による県民への広報等を実施するなど市町と緊密に連携しながら、文化財を大切に守り、次世代へ継承していく機運醸成の推進を図っていく必要がある。
ii) 文化財の適正な保存管理とその活用の促進
・文化財を守り、次世代へ確実に引き継いでいくため、今後とも、文化財の国・県指定を推進するとともに、定期的な巡視による文化財の適切な保全等を図りながら、文化財所有者や市町、専門研究機関等と連携した技術的、財政的支援について推進していく必要がある。
・国指定重要文化財「対馬宗家関係資料」の修復については、損傷度の著しい資料から優先的に修復を実施し、これまで21冊の修復が完了した。しかしながら、修復が遅れるほど資料の劣化が進むとともに、修復経費がさらに嵩むことが見込まれることから、国指定重要文化財「対馬宗家関係資料」の適切な保存・活用のため、今後とも、資料の修復を推進していく必要がある。

4. 30年度見直し内容及び31年度実施に向けた方向性

事業番号	取組項目	事務事業名	30年度事業の実施にあたり見直した内容 (H30の新たな取組は「H30新規」等と記載、見直しがない場合は「－」と記載)	31年度事業の実施に向けた方向性		
				事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
1	取組項目 i	文化財調査管理費	世界遺産推進事業費と統合し、文化財所有者や市町、専門研究機関等と連携した、文化財の保存・活用における技術的、財政的支援について、より効率的な事業のあり方とした。 また、文化財所有者による各年度の事業計画の早期着手及び確実な履行のため、定期的なヒアリングを実施し、状況の把握に努めるとともに、適切な指導・助言を行っていく。	①⑧	「文化経済戦略」(平成29年12月27日内閣官房・文化庁策定)や改正文化財保護法が成立(平成30年6月1日)し、地域の文化財をまちづくりに生かす市町村への支援が盛り込まれるとともに、平成30年度から活用に要する経費に対する国庫補助事業等の拡充が講じられていることから、今後、本県においても、県内文化財の積極的な活用を図っていくため、補助制度などの整備を検討していく必要がある。	改善
2	取組項目 ii	重要遺跡情報保存活用事業費	—	—	国史跡「鷹島海底遺跡」の保存・活用の推進のため、今後とも、松浦市が行う調査研究事業に対し技術的な協力や支援を行うとともに、各種開発行為に伴う埋蔵文化財の調査を実施することにより、埋蔵文化財の適切な保護を図っていく必要がある。	現状維持
3		世界遺産保存整備事業	文化財調査管理費と統合し、文化財所有者や市町、専門研究機関等と連携した、文化財の保存・活用における技術的、財政的支援について、より効率的な事業のあり方とした。 また、文化財所有者による各年度の事業計画の早期着手及び確実な履行のため、定期的なヒアリングを実施し、状況の把握に努めるとともに、適切な指導・助言を行っていく。	①⑧	「文化経済戦略」(平成29年12月27日内閣官房・文化庁策定)や改正文化財保護法が成立(平成30年6月1日)し、地域の文化財をまちづくりに生かす市町村への支援が盛り込まれるとともに、平成30年度から活用に要する経費に対する国庫補助事業等の拡充が講じられていることから、今後、本県においても、県内文化財の積極的な活用を図っていくため、補助制度などの整備を検討していく必要がある。	改善
4		埋蔵文化財センター管理運営費	—	—	埋蔵文化財の適切な保護と普及啓発の推進を図るため、今後とも、県内の埋蔵文化財の発掘・調査研究や、出土品の保存処理・収集保管、沓岐市立一支国博物館と連携した普及啓発の推進が必要である。	現状維持
5		原の辻遺跡調査研究・保存活用事業費	—	—	国特別史跡「原の辻遺跡」の保存・活用の推進のため、今後とも、国指定範囲の追加指定及び出土品の国重要文化財指定に向けた調査・研究と普及啓発を推進していく必要がある。	現状維持
6		宗家文書修復・保存・整理事業費	ユネスコ「世界の記憶」に登録された「朝鮮通信使」の構成資料である「朝鮮国信使絵巻」の保存・活用により、さらなる日韓友好交流の発展や地域振興の発展に寄与することが期待されることから、現在、修復事業を実施している対馬宗家関係資料「江戸毎日記」に加え、「朝鮮国信使絵巻」を公開活用できるよう修復する。	①⑧	平成30年度に引き続き、現在、修復事業を実施している対馬宗家関係資料「江戸毎日記」に加え、「朝鮮国信使絵巻」を公開活用できるよう修復する。 また、平成32年度の開館を目指して整備が進められている「対馬博物館(仮称)」での展示も見据え、公開活用に有効な資料を優先的に修復するなど、今後の修復計画を策定していく必要がある。	改善

注:「2. 29年度取組実績」に記載している事業のうち、H29年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。